

平成27年度 N I E 実践報告書

鹿児島県立財部高等学校

西 蘭 俊 介

1 年間の取り組み

1 ①年度当初の目標は以下のとおりである。

- ① 新聞を読むことで、文章の論点を正確に読み取る力をつけさせる。
- ② 新聞記事から、ものの見方や考え方を学び、自分の考えをまとめたり、他の人の考えを聞いたりして、幅広い視野を持たせる。

②年度当初の活動計画は以下のとおりである。

- (ア) 毎日の朝読書のうち、火曜日と金曜日に新聞を題材にした共通課題を読み感想を書く。
- (イ) 生徒全員で新聞記事を読み、朝読書の共通課題を選ぶ。(月 1 回)
- (ウ) 財高新聞の発行。
- (エ) 廊下・3年生の教室に当日・昨日の新聞を掲示。
- (オ) 南日本新聞「若い目」への積極的な投稿。
- (カ) 各教科やホームルーム、総合的な学習の時間で活用。
- (キ) 事後アンケートの実施と活用。

③今年度の課題

昨年度は、当初の目標②「幅広い視野を持たせる」について、朝読書では図書委員の生徒の記事選択を尊重しつつ、幅広い分野の記事を活用するように配慮することができた。また、朝読書・授業・課題等で幅広い分野の記事に触れ、自分の意見や感想を書かせることはできた。

今年度は、生徒が自分の感想について振り返ったり、他者（生徒同士）との意見交換・交流したりする活動を積極的に取り入れるよう、計画をし、実践を行った。

2. (ア)(イ)朝の読書の取り組み・生徒全員での記事選び

(内容)

毎朝実施している「朝の読書」の時間のうち、火曜日と金曜日の週2回に新聞記事を利用した一斉読書教材を読み、感想を書く活動を取り入れている。また、今年度から、この時間を利用して、月に一回、新聞記事を生徒全員で読み、興味・関心のある記事を選び、その記事の中から1つをピックアップした後、全員で読み、感想を書いて、生徒同士で共有するための掲示等を工夫した。記事選びの生徒の感想等については別の通り。



写真 1)記事を選んでるところ



写真 2)選んだ記事



写真 3)生徒の考え等を記入し掲示

(実際)

- ① 今年度初めて生徒全員で共通課題にする新聞記事を選ぶ時間を設定した(写真 1))。
- ② 生徒が選んだ記事すべてを教室に一定期間掲示したり(写真 2)), 校内に感想を掲示するコーナーを設置したりした(写真 3))。また、町内の道の駅でも掲示し紹介した。
- ③ 毎回の感想から、各職員が交代で「きらり」と光る感想を「きらら賞」として選出し、全校を挙げてNIE活動に関わる雰囲気づくりを目指した。
- ④ 「きらら賞」に選ばれた感想を図書だよりに掲載し、選出理由も含めて紹介した。
- ⑤ 新聞記事を生徒全員で選ぶ際、生徒同士でお互いに意見交換や考えを共有しやすくするために、職員が記事を選ぶ際の意識する点を促した。
- ⑥ 昨年度に引き続き、朝読書の時間に新聞記事を読ませる場合、プラスプリントとして、設問等の工夫をいくつか行った。

3. (ウ)「財高新聞」について

(内容)

本校には、生徒の作成する学校新聞(学校だより)がなかった。そのため、図書委員長の提案で毎学期発行することとなった。当初は、教員・生徒へのインタビューといった内容だったが、意識調

査のように全生徒にアンケートを取り、集計結果を考察して掲載するなど、新聞の形式を参考に作成した。

4. その他の活動について

①(エ)校内での掲示について

廊下・玄関・3年教室に加えて、3年特別教室に数カ月分のバックナンバーを配置した。レポート学習を行ったり、就職・進学の試験の面接に備えて時事問題の確認を促したりして、配置されている新聞の活用を図った(写真4)。



写真 4)

②(オ)若い目への投稿について

各クラス担任や行事担当者かに協力を呼びかけ、生徒の感想文から若い目への投稿を勧めた。結果的には、生徒7人の投稿が掲載され(写真5))、若い目賞もいただくことができた(写真6))。生徒の大きな励みになったことは間違いない。



写真 5)



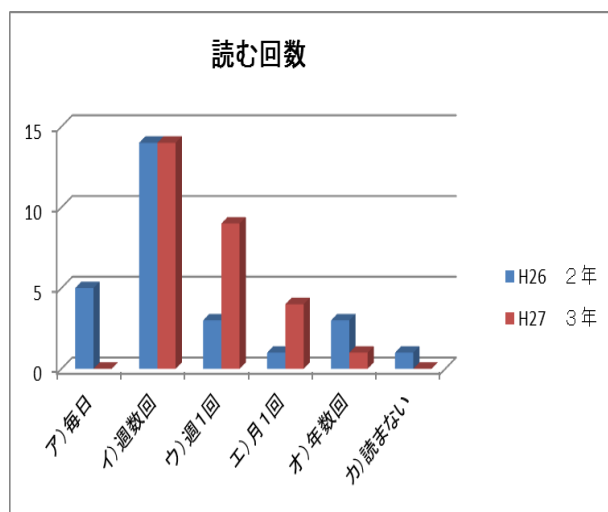
写真 6)

③(カ)各教科での活用について(英語科)

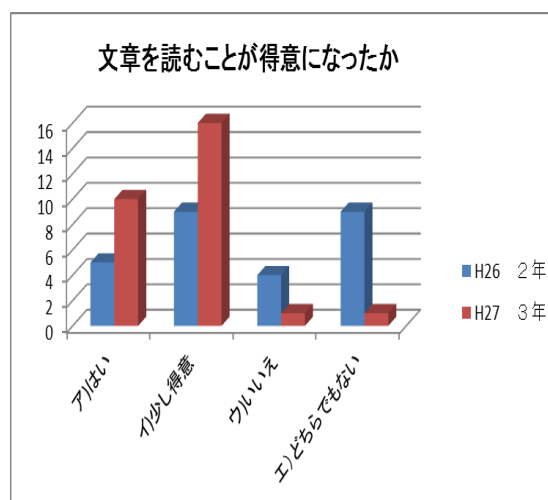
授業において、教師と生徒の英会話のコミュニケーションをとる手段として、生徒に気になるニュースなどを聞いて、感想や意見などを行った。その際、教師は生徒にはなぜその記事を選び、どこに興味を持ったかなどを合わせて確認した。生徒の中からは、集团的自衛権、18歳に選挙権引き下げ、4校交流、ISなどについて話題が上がったとのこと。

④(キ)事後アンケートについて

「読む回数」の増減や「文章を読むことが得意(になったか)」、朝読書における記事選び、3年間のNIE研究指定校としての取り組み等に注目し、アンケートをした。「読む回数」は、毎日読む生徒は減ったが、全体的に「読む回数」が増えてきたと思われる(グラフ1)。「文章を読むことが得意」については、「不得意になった・どちらでもない」が減少し、「得意・少し得意になった」の増加が著しい(グラフ2)。「読む回数」はそこまで上昇しなかったものの、「文章を読むことが得意」が上昇した理由は、長期にわたる朝読書等で、「文章の読み方・読み取り方」を身に付け、自分の考え等を「書くこと」で発信できたからではないかと思う。



グラフ 1)



グラフ 2)

3 今後の課題

今年度のNIEに関する取り組みは、1-②の目標に対する具体的な活動からスタートした。生徒のアンケートからみても、ある程度の成果は得られたと思われる。ただ、課題としては次の点が考えられる。

1点目は、記事選びで出された生徒の意見や考え等を、授業等でより深く共有する時間を設ける必要がある。生徒が意見等を発表し討論するなどする場を設定できるならば、思考力などの深まりが期待できると思われる。生徒の思考力等の向上を目標とする場合、年間のカリキュラムの構成やどの教科等に位置づけていくかも検討する必要がある。

次に、今回の継続的な活動により、生徒の思考力や文章力などを向上させることに一定の効果はあったと思われる。ここで身に付けた能力を、さらに伸ばしていくために、教科等で取り組む内容にどうつなげていくかが大きな課題となる。ただ、本校は今年度閉校するため、今後活動を展開することはできないのが残念である。